

# 平成9年度 和歌山県名匠

## 【木工品制作】

## 新家虎雄

【現住所】高野町

【生年】大正10年

### 業績及び経歴

大正10年高野町に生まれる。自らが山で種子を採取し育て上げるなど、林業で木に接するうちに、昭和25年より木工品制作に取り組む。

氏は、山で学んだ木に対する知識と、木工品制作にかける情熱により、製材の手法を始めとし、製作工具の考案に至るまで多くを独学で修得し、独自の技術を養ってきた。

作品に使用する木の種類は、柘植・楠・桧・欒など様々だが、生まれ育った高野山周辺に多数ある杉を最も好んで使用している。

その作風は、永年風雪に耐えてきた原木の年月とともに刻み込んできた様々な木目を活かし、氏が培ってきた独自の技法により、素材を育ててきた大自然の息吹を感じる作品に仕上げている。

また、常に現状に満足することなく、新しい技法を編み出すため、鹿児島県の屋久島の素晴らしい杉や北海道の白樺など、全国各地の木々をその背景を含め研究するなど、その制作のためには、寝食を惜しまない。

この様な、氏の作品やその人柄に魅せられた後進には、その技術を惜しみなく伝えるとともに、次代を担う子供達には、紀の国和歌山の自然に育まれた木々に親しんでもらうため、夏の高野山の林間学校にやってくる子供達に竹細工や木工細工を教えている。